

私学教育の在り方探る 県研修会に教諭ら220人

八戸

県私学教育研修会がこのほど、八戸市の八戸パークホテルで行われた。県内の私立高校の校長、教諭ら約220人が講演や研究発表を通して私学教育の在り方を探った。



最終日の17日は、参加者が四つの部会に分かれて学校運営や進路指導など具体的なテーマについて考えた。教務部会では、「私学の独自性を具現化する教育課程」と題し、東奥学園高校(青森市)の浅利洋志教諭が同校の取り組みを発

県内の私立高校の教諭らが集まり開かれた県私学教育研修会

表。特進コースを開設するにあたっての課題や改善点などを紹介した。

八戸学院短期大学(八戸市)の茂木典子学長補佐は、2008年まで自身が校長として赴任していた田子高校の連携型中高一貫教育について説明。自身の経験を基に「学校の独自性を具現化するためには全教職員の共通理解を深めること、生徒に達成感を与えることが大事」とアドバイス。「少子化が進む中、学校の独自性はますます求められる。どんな教育を受けさせると生徒の将来が開けるかを考えなければならぬ」と語り掛けた。

(山内はるみ)